

平成24年度 第1回英語学教育FD／ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日 時：平成24年6月23日(土) 14時～16時
- II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者：山本涼一委員長、田中宏明副委員長、北出亮委員、小林悦雄委員、
西納春雄委員、山本英一委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員
- IV. 検討事項

本年度は、先に完成した英語教育における教育改善モデルの実施にあたり必要となる教員の「教育力」について考える。スケジュールとしては、

1. 具体的な教育力の特定
2. 実現のための方策
3. 必要となるFD
4. 案の見直し・取りまとめ

という順番で議論を進めるため、9月までに委員会を4回実施する。

冒頭に、事務局より、配布の資料に基づき、今年度の議論の進め方、ならびにポイントとなる事柄について詳細な説明があった。以下、重要点を列挙する。

- ・ 教員の振返りを踏まえて、備えるべき資質を明確にする必要があり、これをガバナンス（マネージメント）への提案につなげる。
- ・ 「教育力（教育指導能力）」について確立されたコンセプトがなく、個々の大学が大学設置基準を読み解くことが求められていた。→ 関係者が判断基準について整理することを、私情協として提言【参考資料1（2006年）】。
- ・ 「授業の設計・評価・改善の能力」が重要（「学生主体授業の取組み能力」）/ 「人間力向上への取組み能力」/ 「教室外での学習指導能力」/ 「授業の質保証取組み能力」/ 「教育態度に関する能力」/ 「教育改善に向けた提案・啓発の能力」→ 単に授業の技法に留まらない。
- ・ 学識論（「大学教員に期待される役割とは？」）：「発見の学識」/ 「統合の学識」/ 「応用の学識」/ 「教育の学識」【参考資料11】
- ・ 「学士課程教育の構築に向けて」（中教審・2008年 答申）：「高度な専門職である大学教員に求められる専門性、FDによって開発すべき教育力に関する枠組み等の策定について検討する。」→ 大学団体等が中心となって、主体的な取組が進められるよう、必要な支援を行う、と規定されている【参考資料2】。
- ・ 教育システムの抜本改革：「次世代を見据えた教育システムの抜本改革」→ 高校卒業時までに必要な能力について、産業界及び労働界の意見を踏まえて検討することが述べられており、やがて大学にもそのような視点で教育を受けた生徒が入学することに留意す

- る必要あり【参考資料 5】。
- ・ 国としてメリハリのある支援：「学生の海外への送出し」（英語と関係あり） / 「重点領域（環境、エネルギー、介護等）」 / 地域再生 / 農業分野（地産地消） / 主体的学修の促進【参考資料 6】
 - ・ 「予測困難な時代に・・・主体的に考える力を育成する大学へ」：「答えのない問題」を発見し、最善解を導くに必要な専門的知識・汎用的能力を鍛えること。→ 学修時間を確保し、主体的に考える若者の育成が大学の重要な責務【参考資料 4】。
 - ・ 学修時間と質保証のために：教育のミッションと科目の連携を明示せよ（①教育課程の体系化） / （複数の教員による統合授業も視野に入れつつ）組織的な取組を目指せ（②組織的な教育の実施） / 授業だけでなく、事前の準備、事後の展開について具体的に記述せよ（③シラバスの充実） / ④全学的な教育マネジメントの改善【参考資料 4】
 - ・ 他分野での議論のポイント：学識に先だって、教員の使命感・倫理観が重要 / 隣接領域を含めて、俯瞰的に眺められること / 科学的視点とイノベーションの必要性 / コラボレーションする力 / 気づきを誘導する教育力 / ICT の活用【参考資料 12】

このようなポイントを踏まえて、委員長の家（「使命感・責任感」 / 「世界の流れの把握」 / 「他分野などとの連携（脳、心、社会との連携）」 / 「科学的な解析や問題発見・解決力」 / 「ICT の活用能力」）を叩き台として、種々検討・議論を行った。その際、キーワードとなったのは、次の語句である。

- ・ 倫理観、共生社会、多様性
- ・ 多元的価値、複眼的視点
- ・ 幅広い領域への関心、創造性、革新性
- ・ 言語と社会の結びつき
- ・ （学習者の）主体性
- ・ （ICT を活用した）参加型教育
- ・ 他分野、専門分野との連携・協働

これらのキーワードを考慮しながら、本委員会では、以下の案を作成した。

「英語学教員に期待される専門性」

- ① 言語の多様性と文化の相互理解に強い関心を持ち、使命感と倫理観を持って共生社会の持続的な発展に関与できること。
- ② 言語・文化・社会の多元的価値を常に意識し、複眼的な視点から言語とコミュニケーションのあり方を探求できること。
- ③ 様々な領域に関心を持ち、英語教育について創造的かつ革新的な探究ができること。
- ④ 他分野の専門領域や社会と連携し、協働して課題に取り組む姿勢を有していること。
- ⑤ 言語と社会の結びつきの有用性に気づかせ、英語によるコミュニケーションに主体

的・実践的に取り組ませられること。

- ⑥ ICTなど教育に活用できる資源・技術・方法を用いて、積極的な参加を促す教育ができること。

V. 今後の検討スケジュールについて

次回委員会：平成25年8月1日（水）14:00～

検討事項：教育改善モデル実現に求められる教育力

以上